

平成21年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	◆調査対象	川崎市在住の満20歳以上の男女個人	◆調査方法	郵送法
	◆標本数	3,000 標本	◆調査期間	平成21年11月11日(水)～11月27日(金)
調査項目	◆標本抽出	住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数	1,424 標本
			◆有効回収率	47.5%

1	定住状況について	6	ニヶ領用水竣工400年について
2	生活環境の評価について	7	「かわさき市民カード」について
3	関心ごとと行動範囲について	8	市民が取り組む緑地保全活動について
4	市政に対する評価と要望について	9	区役所窓口の第2・第4土曜日開設について
5	川崎市自治基本条例について		

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	601	42.2
2 女性	794	55.8
(無回答)	29	2.0
合計	1,424	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	201	14.1
2 幸区	151	10.6
3 中原区	233	16.4
4 高津区	217	15.2
5 宮前区	235	16.5
6 多摩区	192	13.5
7 麻生区	186	13.1
(無回答)	9	0.6
合計	1,424	100.0

3 性/年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	157	11.0	62	10.3	95	12.0	0	0.0
2 30歳代	307	21.6	122	20.3	184	23.2	1	3.4
3 40歳代	269	18.9	112	18.6	157	19.8	0	0.0
4 50歳代	224	15.7	101	16.8	123	15.5	0	0.0
5 60歳代	280	19.7	133	22.1	147	18.5	0	0.0
6 70歳以上	158	11.1	71	11.8	86	10.8	1	3.4
(無回答)	29	2.0	0	0.0	2	0.3	27	93.1
合計	1,424	100.0	601	100.0	794	100.0	29	100.0

1 定住状況について

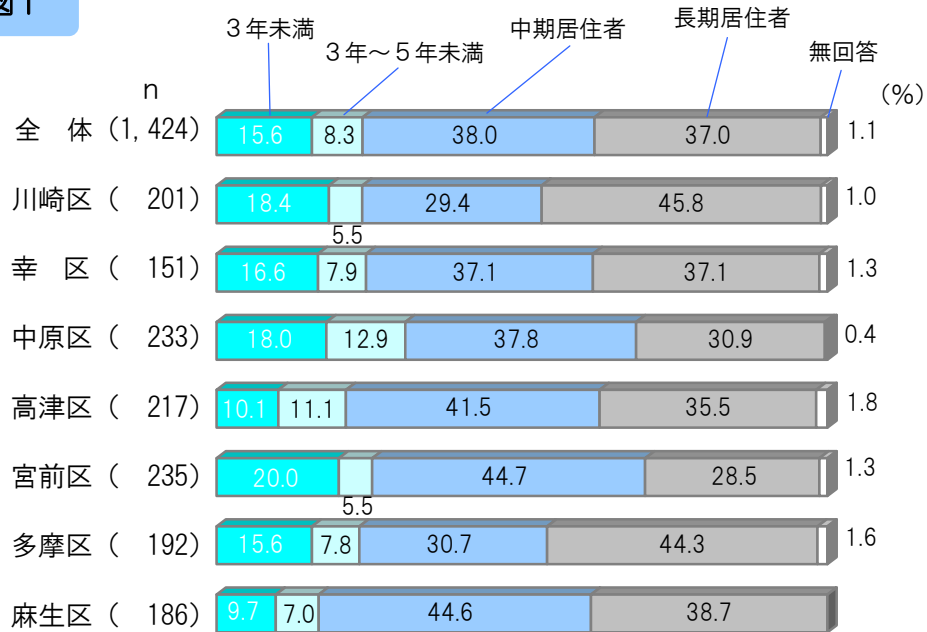
1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別で見ると、＜長期居住者※¹＞は、川崎区（45.8%）と多摩区（44.3%）が4割を超えて高い。＜中期居住者※²＞は宮前区（44.7%）、麻生区（44.6%）、高津区（41.5%）で4割を超えている。一方、「3年未満」は宮前区（20.0%）で2割となっている。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満

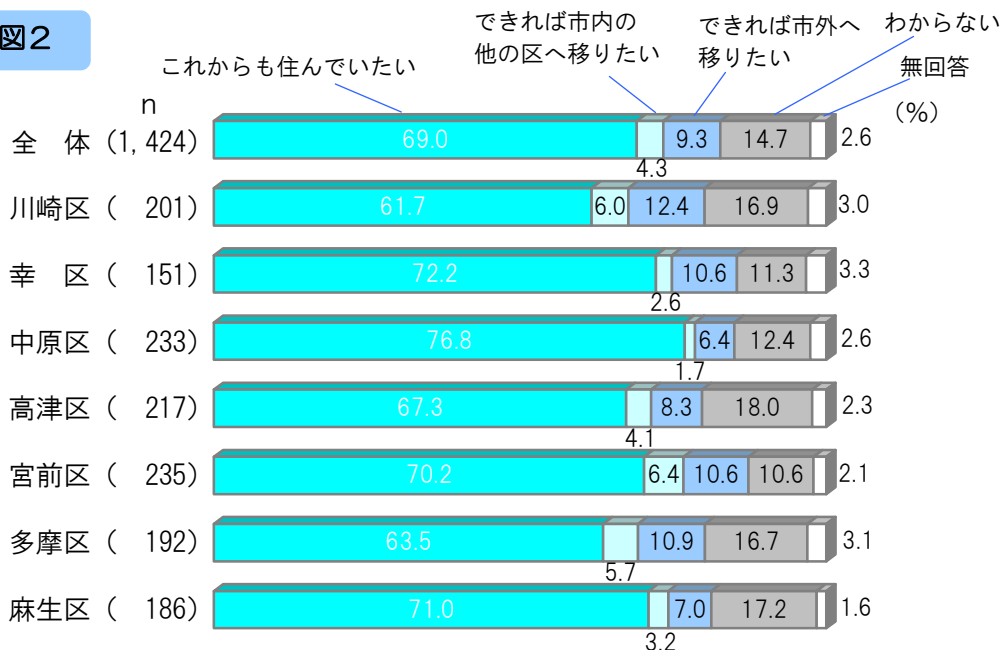
図1



2 定住意向

定住意向を聞いた。居住区別で見ると、「これからも住んでいたい」は、中原区（76.8%）、幸区（72.2%）、麻生区（71.0%）、宮前区（70.2%）で7割を超えている。

図2

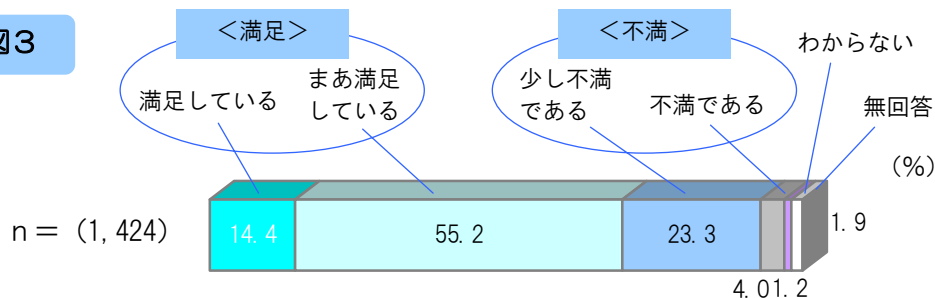


2 生活環境の評価について

1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(14.4%)と「まあ満足している」(55.2%)をあわせた<満足>は約7割となっている。一方、「少し不満である」(23.3%)と「不満である」(4.0%)をあわせた<不満>は2割半ばとなっている。

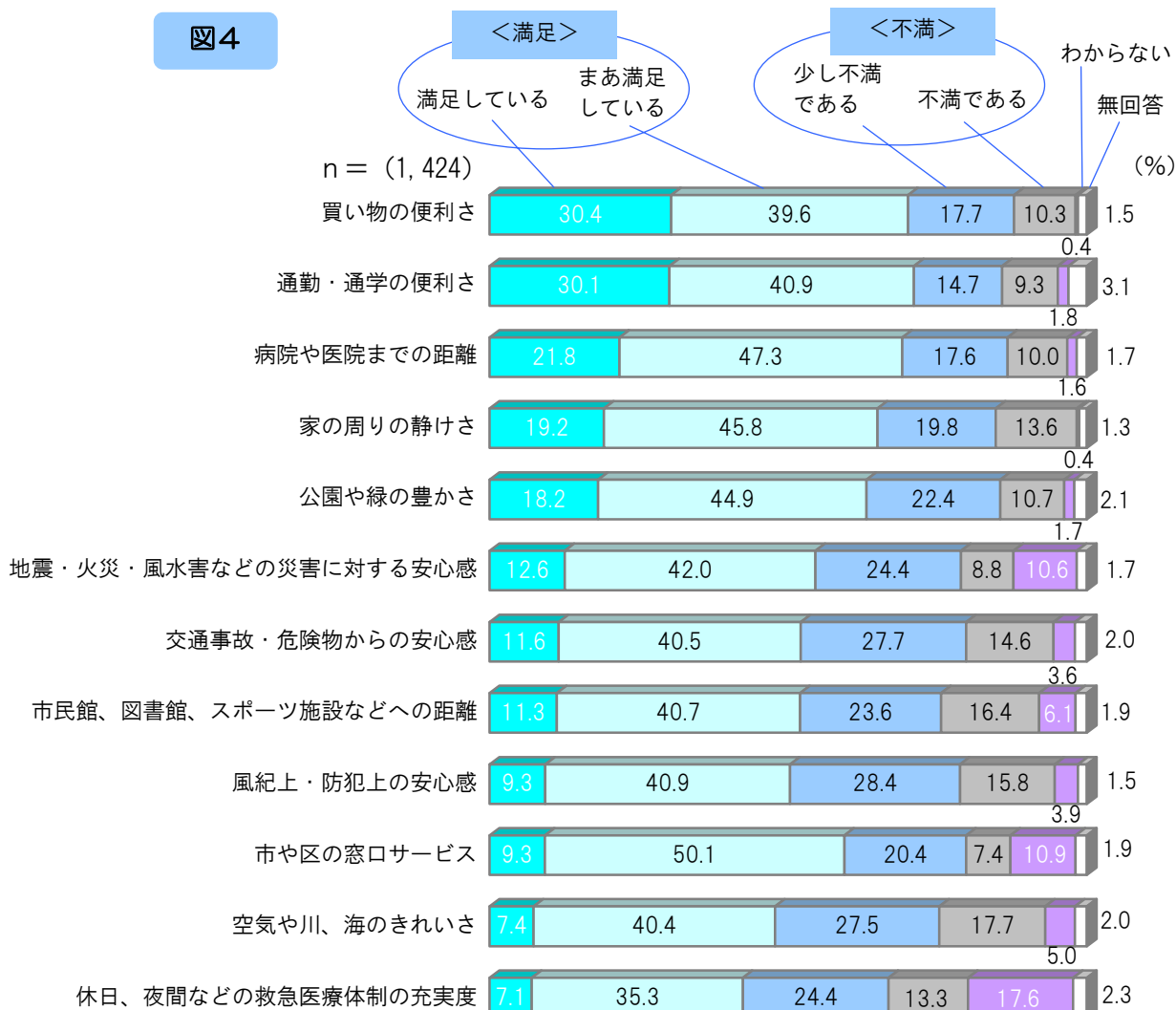
図3



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>が高いものは「買い物の便利さ」(70.0%)、「通勤・通学の便利さ」(71.0%)、「病院や医院までの距離」(69.1%)が7割前後となっている。

図4



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(70.8%)が7割と最も高くなっている。次いで「老後の生活」(51.6%)、「家族」(49.7%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(43.7%)、「趣味・娯楽」(41.4%)、という順になっている。

年代別でみると、「老後の生活」は50歳代～70歳以上、「仕事(家事や勉強も含む)」は20歳代～40歳代で高くなっている。

図5 (複数回答) n = (1,424)

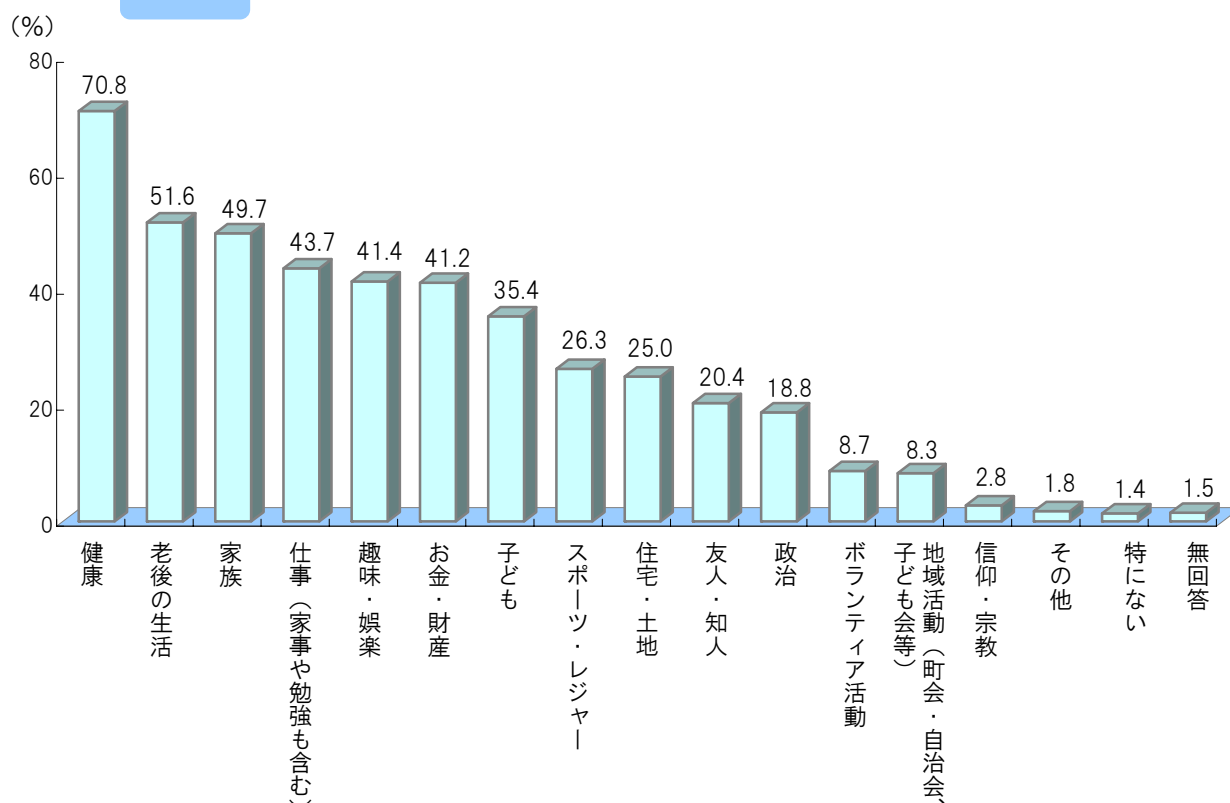


表1 (複数回答、上位10項目)

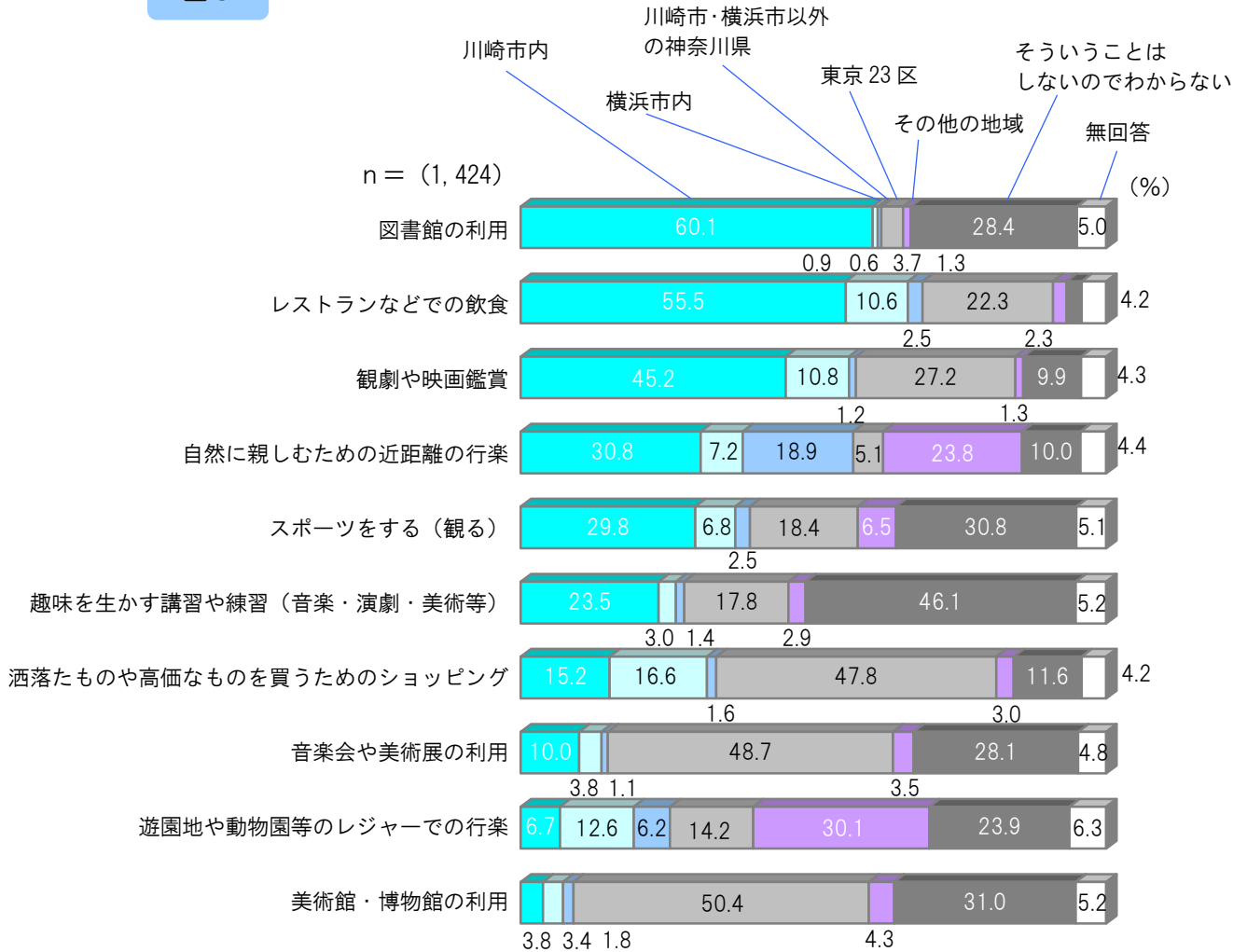
調査数	(%)										
	健康	老後の生活	家族	仕事(家事や勉強も含む)	趣味・娯楽	お金・財産	子ども	スポーツ・レジャー	住宅・土地	友人・知人	
全体	1,424	70.8	51.6	49.7	43.7	41.4	41.2	35.4	26.3	25.0	20.4
20歳代	157	51.6	14.0	36.3	68.8	65.0	49.7	24.2	37.6	28.0	31.2
30歳代	307	59.3	24.4	55.4	60.6	37.1	48.2	58.6	30.9	36.8	20.2
40歳代	269	71.7	42.8	59.1	59.1	44.6	43.5	50.6	30.5	24.5	15.2
50歳代	224	77.2	75.9	52.7	39.7	41.1	42.4	25.0	19.2	23.7	17.0
60歳代	280	81.1	79.3	48.2	19.6	37.5	31.1	20.0	23.6	18.6	19.6
70歳以上	158	82.9	70.9	36.1	10.8	27.2	33.5	18.4	14.6	13.9	25.9

2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(60.1%)、「レストランなどでの飲食」(55.5%)、「観劇や映画鑑賞」(45.2%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(30.8%)となっている。

一方、『東京 23 区』の利用率が高い項目は、「美術館・博物館の利用」(50.4%)、「音楽会や美術展の利用」(48.7%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(47.8%)となっている。

図6



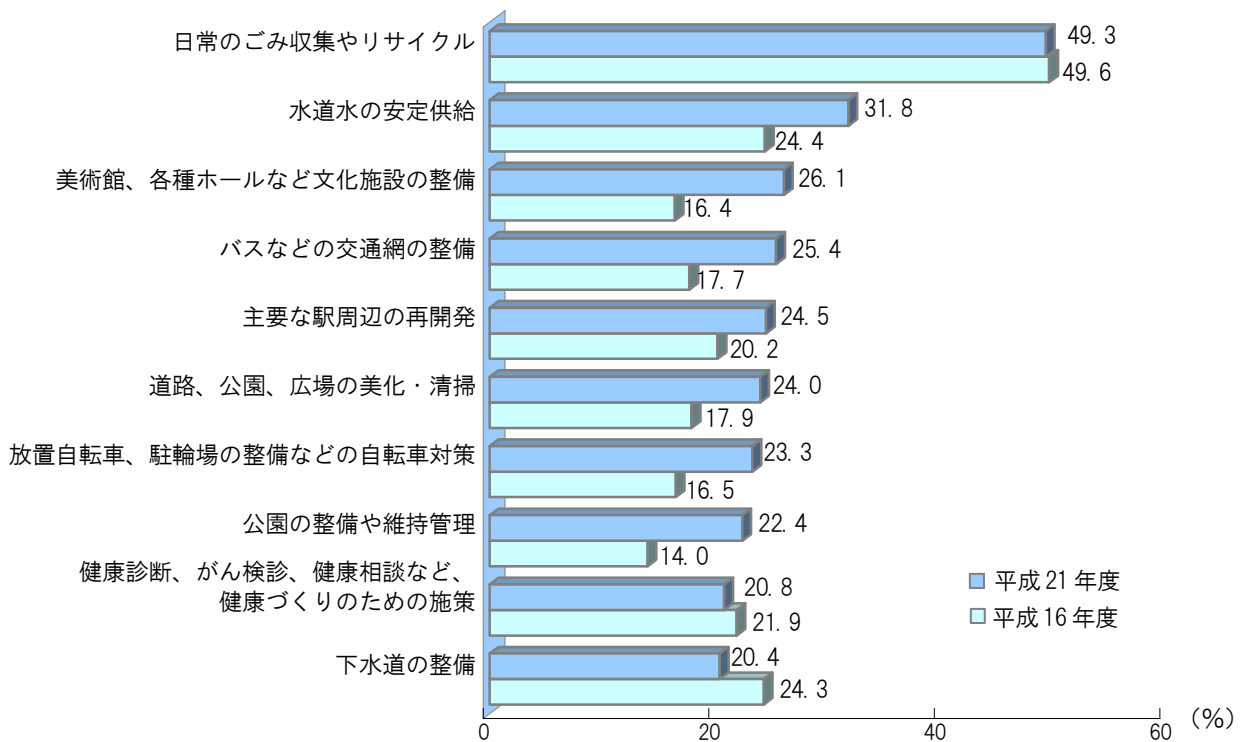
4 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(49.3%)は約5割と高く、次いで「水道水の安定供給」(31.8%)、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(26.1%)となっている。

5年前と比較してみると、全体的に増加した項目が多く、特に「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(26.1%)は9.7ポイント、「公園の整備や維持管理」(22.4%)は8.4ポイント、「バスなどの交通網の整備」(25.4%)は7.7ポイント増加している。

図7 (複数回答、上位10項目、平成16年度との比較) n = (1,424)

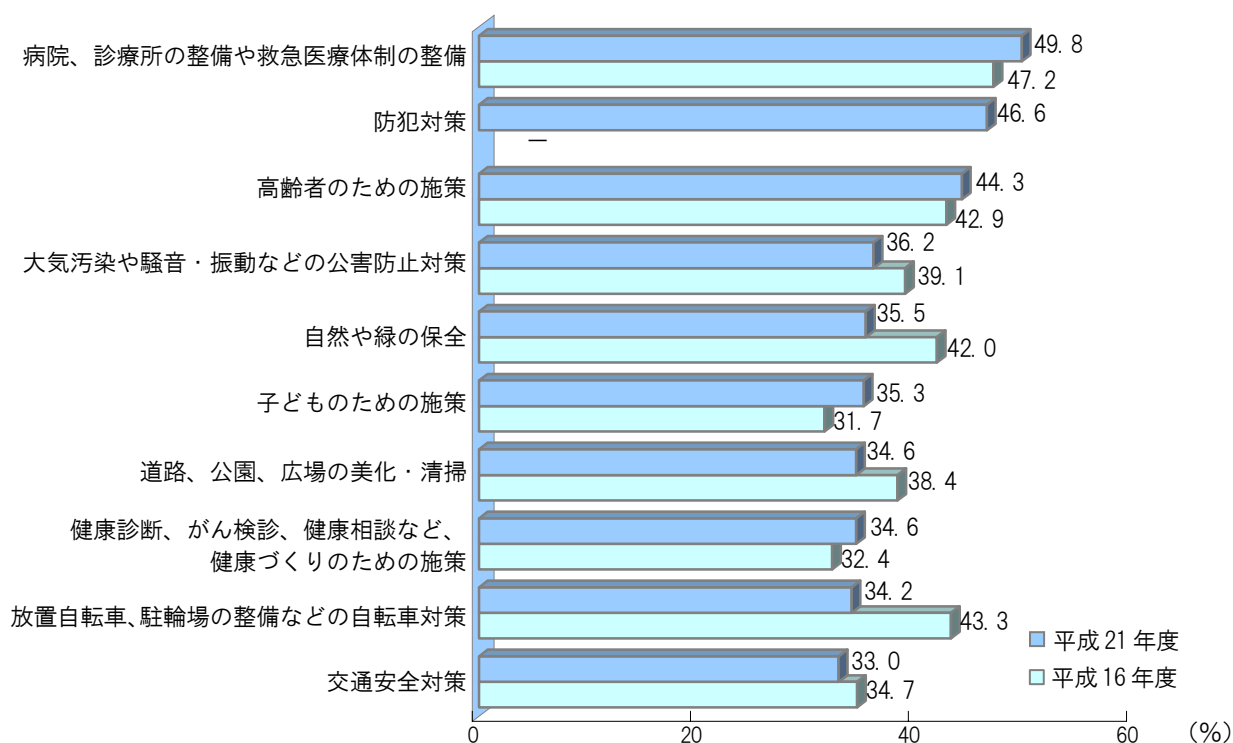


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(49.8%)で約5割、「防犯対策」(46.6%)は4割半ばを超えて高い。

5年前と比較してみると、「子どものための施策」(35.3%)は3.6ポイント、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(49.8%)は2.6ポイント、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(34.6%)は2.2ポイント増加している。

図8 (複数回答、上位10項目、平成16年度との比較) n = (1,424)



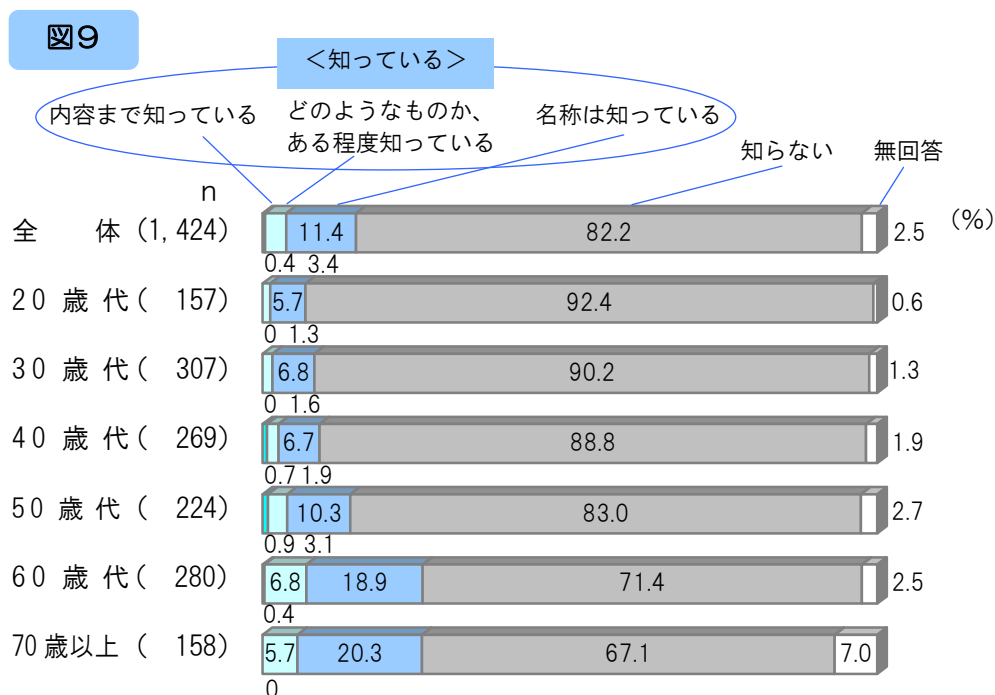
注 「防犯対策」は平成18年度調査からの選択肢であるため、グラフでは平成16年度調査に“-”で表示してある。

5 川崎市自治基本条例について

1 「川崎市自治基本条例」の認知状況

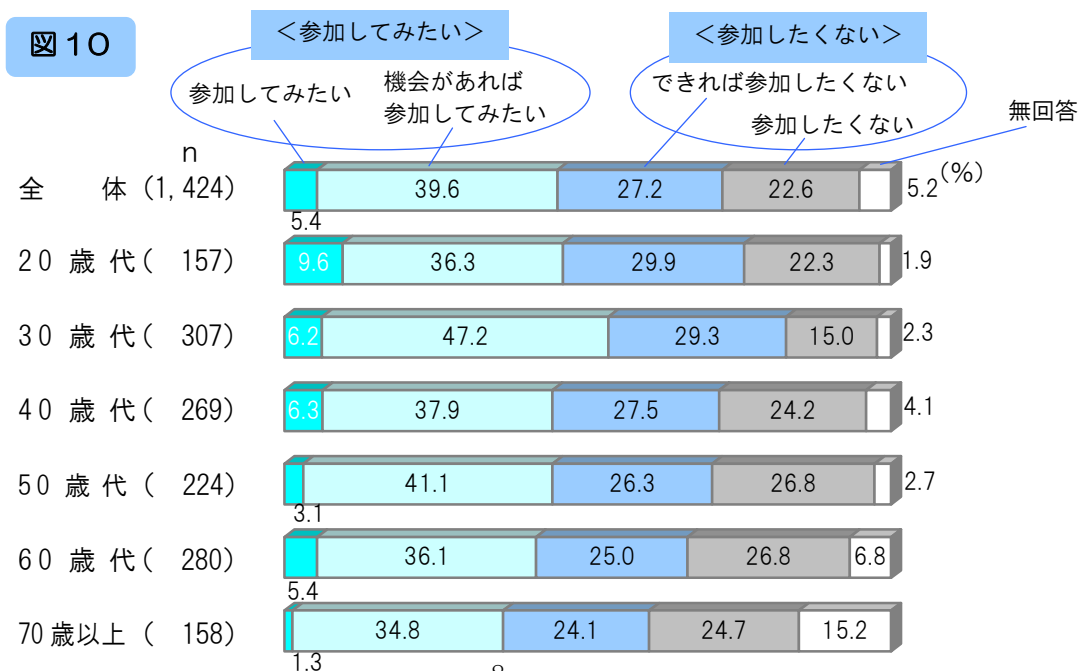
「川崎市自治基本条例」の認知状況を聞いた。全体では「内容まで知っている」、「どのようなものか知っている」、「名前は知っている」をあわせてく知っている>（15.2%）は1割半ばとなっている。

年齢別でみると、<知っている>は50歳代から70歳以上で高くなっている。



2 市政への参加希望

市政への参加希望を聞いた。全体では「機会があれば参加してみたい」（39.6%）が高い。年代別でみると、「参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」をあわせてく参加してみたい>は30歳代（53.4%）が5割半ばと高い。一方、「できれば参加したくない」と「参加したくない」をあわせてく参加したくない>は50歳代（53.1%）が5割半ばと高くなっている。



3 行政の役割について

「自治」を進めるために行政にどのような役割を期待するかについて聞いた。全体では「市政に関する情報をわかりやすく提供する」(55.5%)が5割半ばと高くなっている。

年代別で見ると、「市政に市民の意見を反映させるための機会を作る」は20歳代から30歳代で5割以上と高くなっている。一方、「町内会、自治会、市民活動団体などの活動を支援する」は60歳代以上(37.9%)と70歳以上(42.4%)で高くなっている。

図 11 (複数回答) n = (1,424)

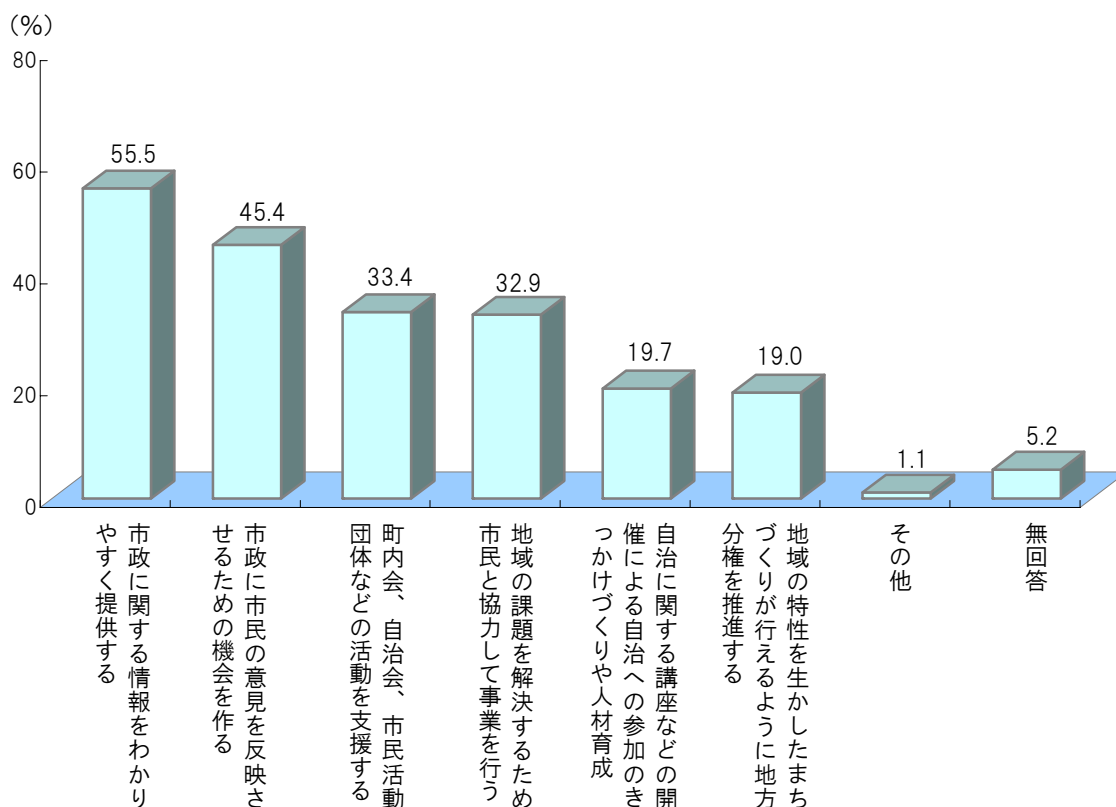


表 2 (複数回答)

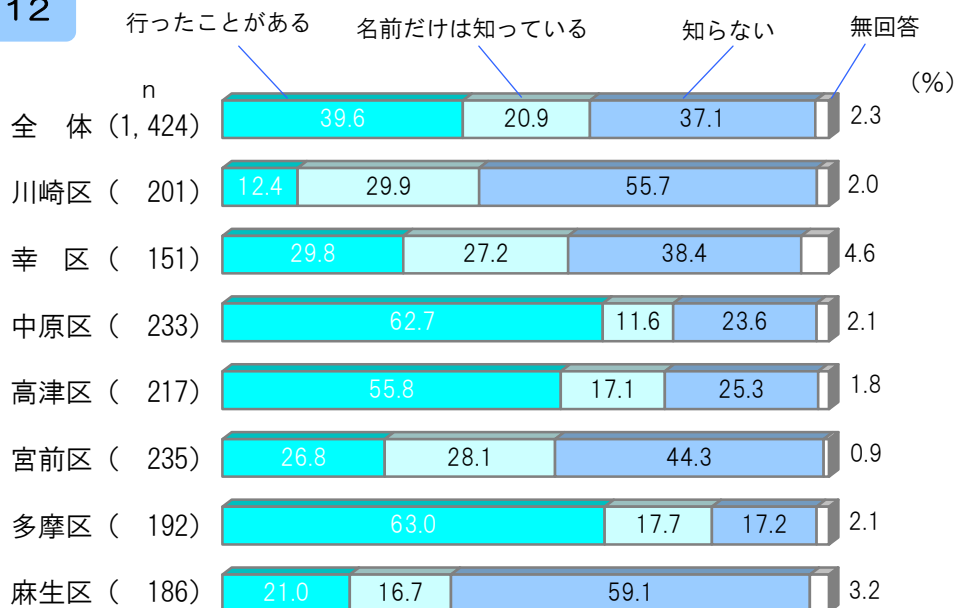
		(%)							
	調査数	市政に関する情報をわかりやすく提供する	市政に市民の意見を反映させるための機会を作る	町内会、自治会、市民活動団体などの活動を支援する	地域の課題を解決するため市民と協力して事業を行う	自治に関する講座などの開催による自治への参加のきっかけづくりや人材育成	地域の特性を生かしたまちづくりが行えるように地方分権を推進する	その他	無回答
全体	1,424	55.5	45.4	33.4	32.9	19.7	19.0	1.1	5.2
20歳代	157	60.5	55.4	25.5	31.8	20.4	15.9	1.3	3.8
30歳代	307	56.0	51.8	28.7	38.1	21.5	16.0	0.0	3.3
40歳代	269	54.6	44.2	34.2	35.7	20.1	18.2	1.1	3.0
50歳代	224	60.7	46.0	32.6	35.3	18.8	18.8	0.4	3.1
60歳代	280	53.6	40.4	37.9	27.1	20.4	24.6	2.5	6.1
70歳以上	158	48.7	32.3	42.4	27.2	14.6	19.0	1.3	13.9

6 ニヶ領用水竣工400年について

1 ニヶ領用水の認知状況

ニヶ領用水の認知状況を聞いた。居住区別で見ると、「行ったことがある」は、多摩区（63.0%）、中原区（62.7%）で6割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は、麻生区（59.1%）で約6割、川崎区（55.7%）で5割半ばと高くなっている。

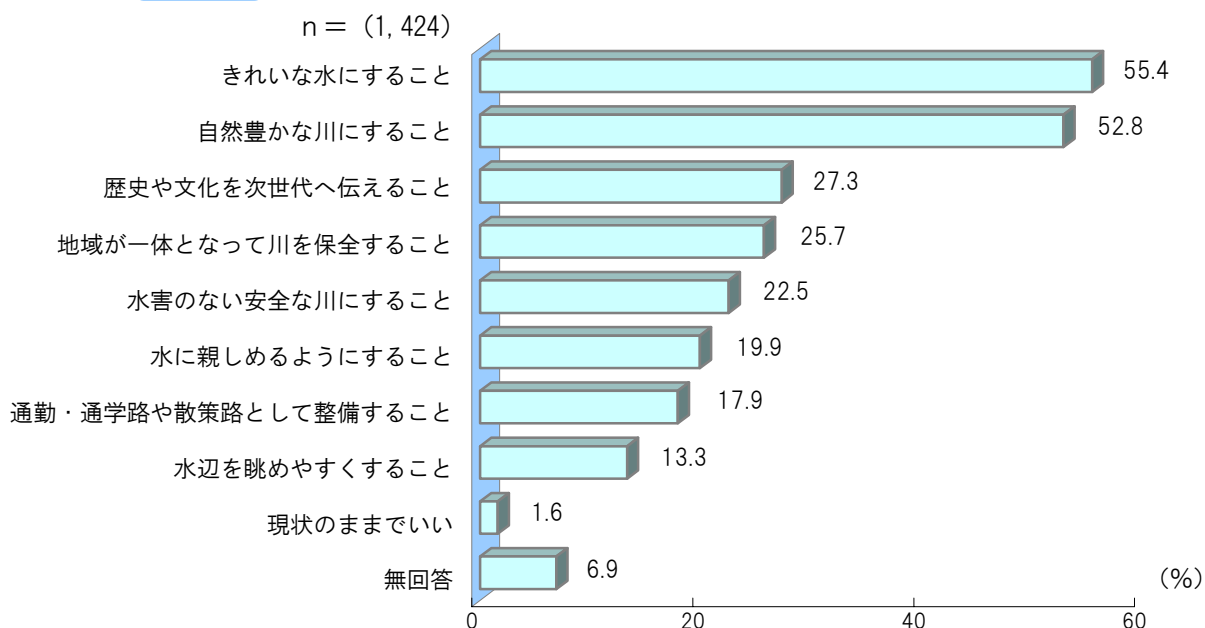
図12



2 ニヶ領用水（もしくは、小さな川や水路）について重要だと思うこと

ニヶ領用水（もしくは、小さな川や水路）について重要だと思うことを聞いた。「きれいな水にする」（55.4%）、「自然豊かな川にする」（52.8%）が5割を超えている。

図13



7

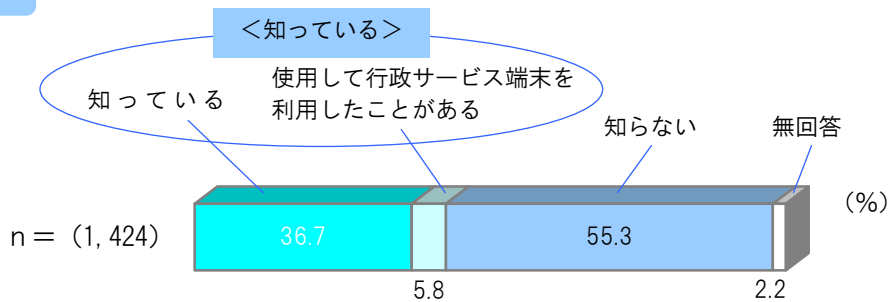
「かわさき市民カード」について

1 「かわさき市民カード」の認知状況と使用状況

「かわさき市民カード」の認知状況と使用状況を聞いた。「知っている」(36.7%)と「行政サービス端末を利用したことがある」(5.8%)をあわせて「知っている」は4割強となっている。

一方、「知らない」(55.3%)は5割半ばとなっている。

図 14

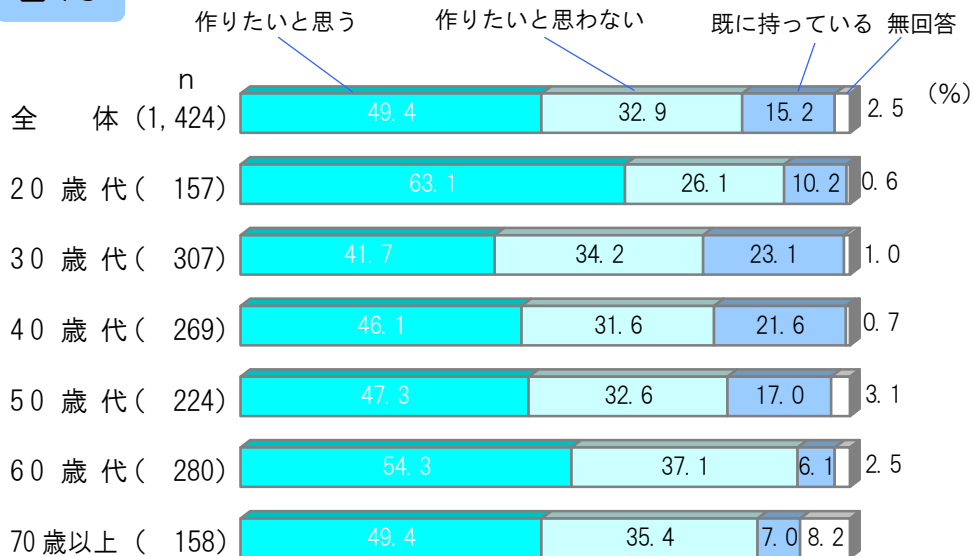


2 「かわさき市民カード」の作成希望

「かわさき市民カード」の作成希望を聞いた。全体では「作りたいと思う」(49.4%)が約5割となっている。

年代別にみると、「作りたいと思う」は20歳代(63.1%)で最も高く、6割を超えている。「既に持っている」は30歳代と40歳代で2割を超えている。

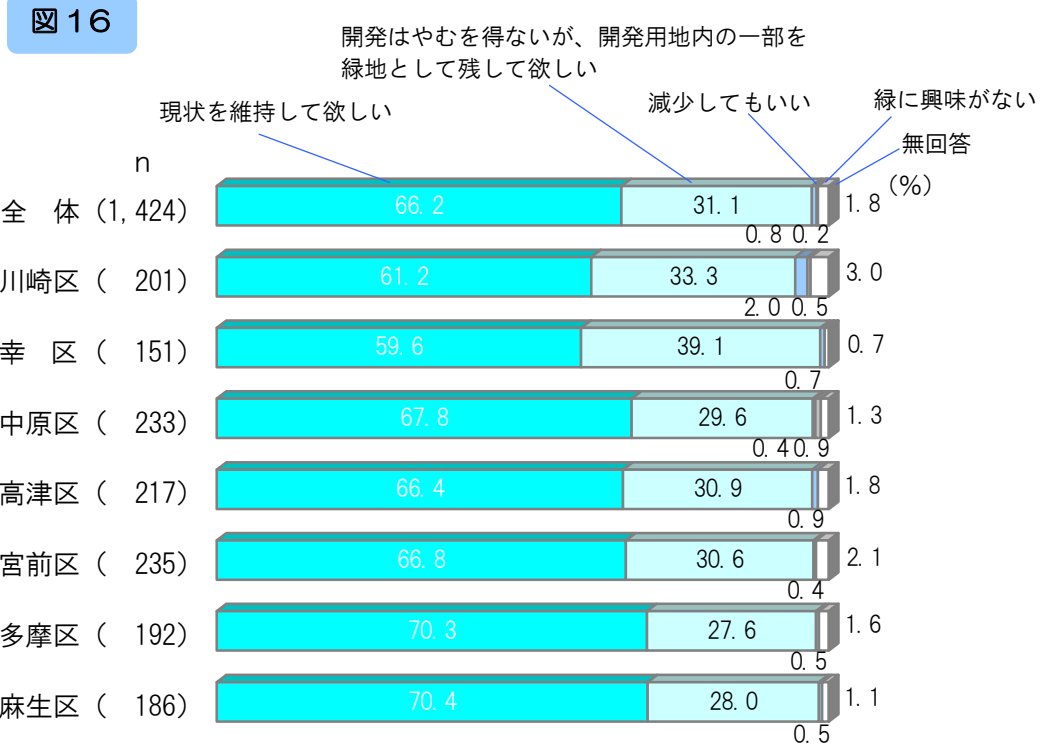
図 15



8 市民が取り組む緑地保全活動について

1 市内の緑地について

市内の緑地についてどのように考えるかを聞いた。居住区別でみると、「現状を維持して欲しい」は、いずれの区でも最も高く、麻生区（70.4%）と多摩区（70.3%）で7割を超えている。

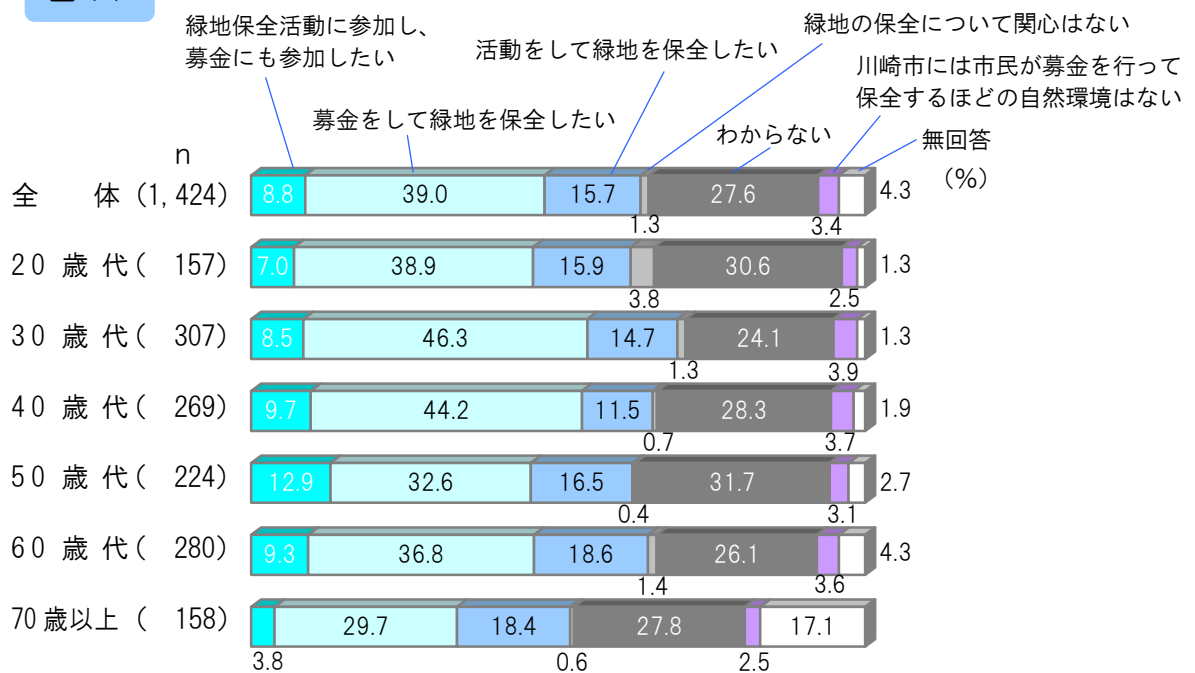


2 トラスト運動への参加について

トラスト運動への参加について聞いた。年代別で見ると、「募金をして緑地を保全したい」は30歳代（46.3%）、40歳代（44.2%）で4割を超えている。一方、「活動して緑地を保全したい」は60歳代（18.6%）、70歳以上（18.4%）で約2割となっている。

※トラスト運動：トラスト運動は、開発や都市化の波、相続税対策による見切り売りなどから、貴重な自然環境などが破壊されるのを防ぐため、市民から寄付金を募って、その土地などを買取ったり、寄贈を受けたり、保存契約を結び、保存、管理、公開して、後世に残していこうという市民活動です。

図 17

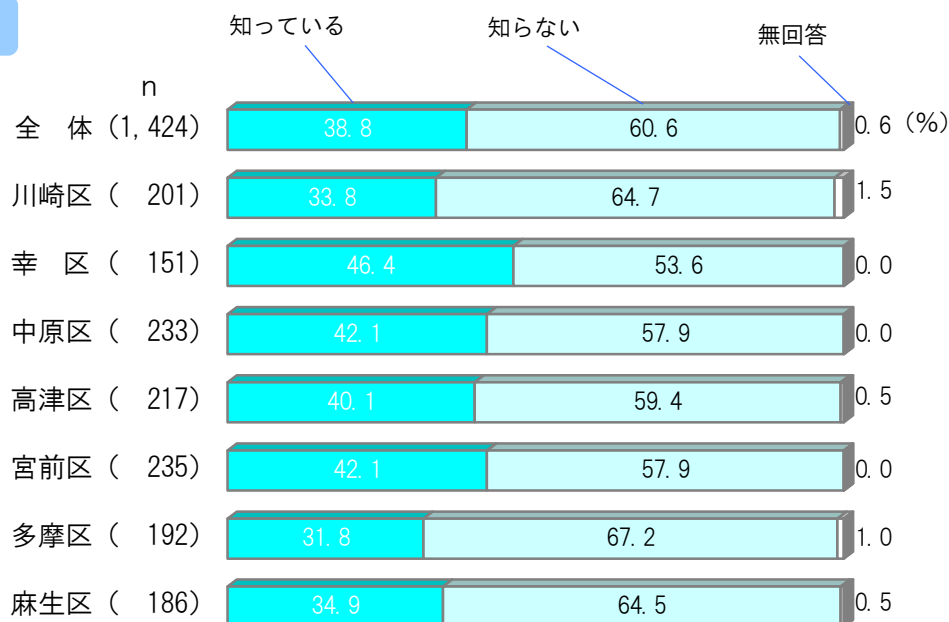


9 区役所窓口の第2・第4土曜日開設について

1 特定の土曜日における窓口開設の認知状況について

特定の土曜日における窓口開設の認知状況について聞いた。居住区別でみると、「知っている」は、幸区(46.4%)が最も高く、次いで中原区(42.1%)、宮前区(42.1%)、高津区(40.1%)と4割を超えている。一方、「知らない」は、多摩区(67.2%)、川崎区(64.7%)、麻生区(64.5%)と6割を超えている。

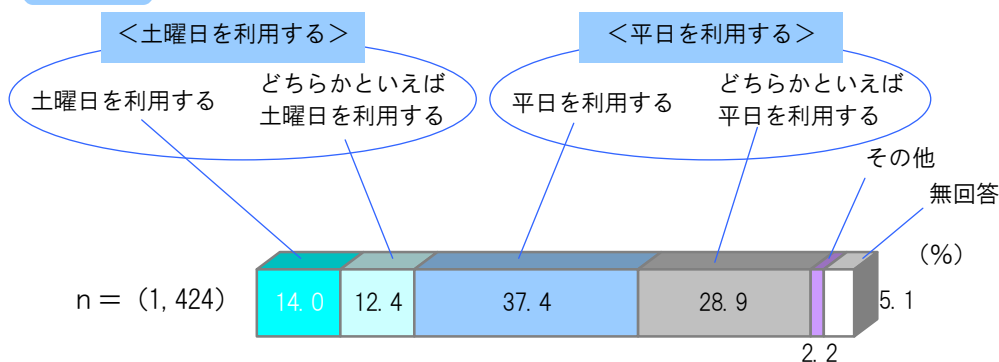
図18



2 届出を行うための区役所の利用日

届出を行うための区役所の利用日について聞いた。「平日を利用する」(37.4%)と「どちらかといえば平日を利用する」(28.9%)をあわせて平日を利用するは6割半ばを超えている。一方、「土曜日を利用する」(14.0%)と「どちらかといえば土曜日を利用する」(12.4%)をあわせて土曜日を利用するは2割半ばとなっている。

図19

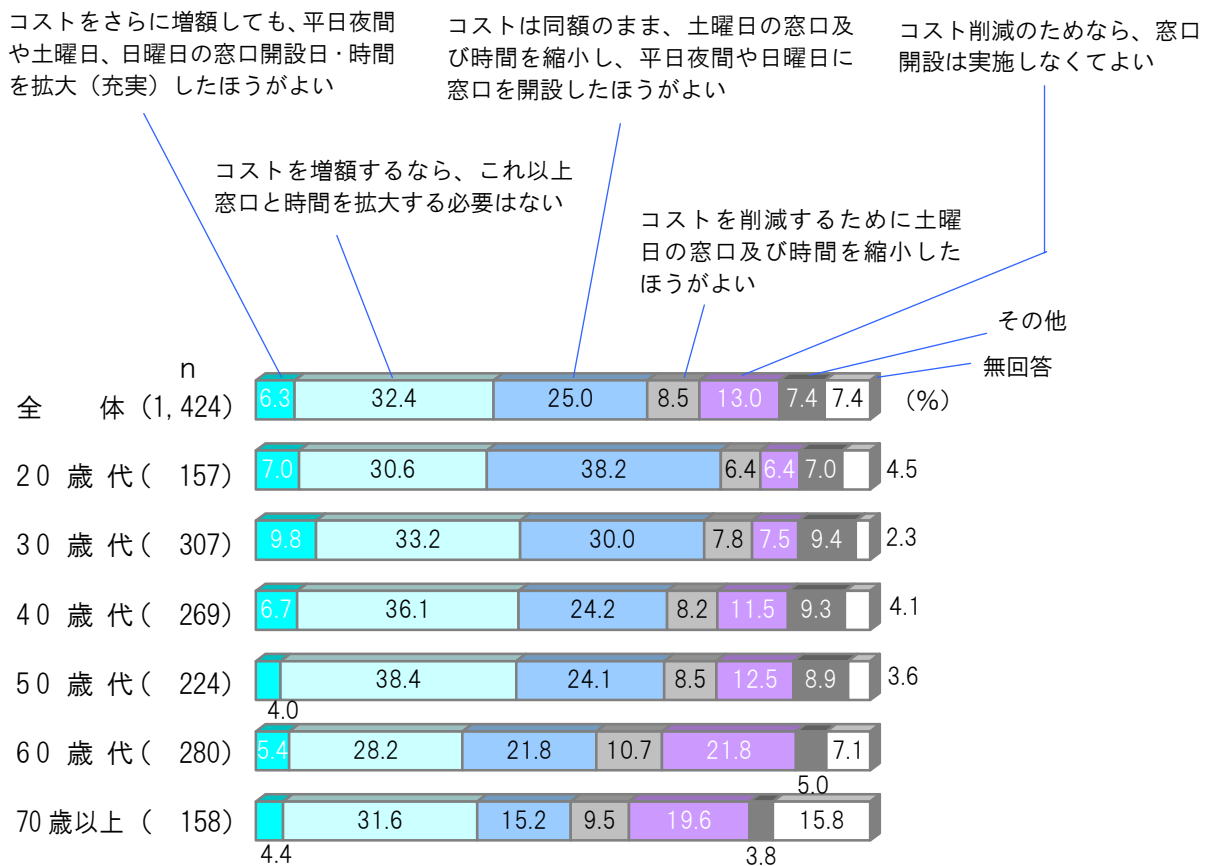


3 区役所窓口の土曜日開設と、コストについて

区役所窓口の土曜日開設と、コストの関係について聞いた。全体では「コストを増額するなら、これ以上窓口と時間を拡大する必要はない」(32.4%)が3割前半で最も高い。

年代別にみると、「コストを増額するなら、これ以上窓口と時間を拡大する必要はない」は、50歳代(38.4%)で約4割と高い。「コストは同額のまま、土曜日の窓口及び時間を縮小し、平日夜間や日曜日に窓口を開設したほうがよい」は、20歳代(38.2%)で約4割と高い。

図20



平成21年度第2回かわさき市民アンケート概要版
平成22年3月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2148

FAX 044-200-3919